

学校 教育 目標	それぞれが飛べ みんなで翔べ ゆめいっぱい戸部				
	・それぞれが飛べ : 自ら問題を発見し、ねばり強く課題解決に取り組み、心と体を鍛え、自分のよさを見つけ、自分を大切にすることも ・みんなで翔べ : まちの人や友達から学び、そのよさを見つけられる子ども ・ゆめいっぱい戸部: まちとの関わりを通して、広い視野をもち、まちと共に生きる子ども				
学校 概要	創立 144 周年	学校長 保科 優子	副校長 田中 孝之	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 5
	児童生徒数: 390 人		主な関係校: 老松中学校 東小学校 一本松小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	老松中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<夢をもち、夢を実現する力>	老松中学校 東小学校 一本松小学校	・必要な基礎学力を身に付けながら学習への興味・関心をもち、学び続ける姿勢を身に付けた子ども。基本的な生活習慣を身に付け、他者への思いやりや礼儀をもった子ども。 ・基礎・基本の定着を図るとともに、自主的に継続して学ぶ習慣を身に付ける取組として、読書の時間やスキルタイムを設定する。 ・ブロック小・中学校授業研究会を行い、研究協議で相互の指導やカリキュラム・マネジメントについて情報交換する。 ・年間を通して挨拶運動の実施や挨拶当番を設置し、挨拶の励行をする。

中期 取組 目標	「子どもが主人公の学校」
	子ども自らが本気で実現したい夢をもち、その夢の実現に向けて、子ども自らが学びをつくり出し、友達やまちの人たちと一緒に全力・本気で取り組み、まちとともに生きる子どもを育てます。 ・1年目は、夢の実現に向けて、友達やまちの人たちの力を借りながら主体的に粘り強く探究しようとする子どもを育てます。 ・2年目は、夢の実現に向けて、子ども自らが解決に向けて見通しをもち、友達やまちの人たちと一緒に解決しようとする子どもを育てます。 ・3年目は、夢の実現に向けて、子ども自らが学びをつくり出し、友達やまちの人たちと一緒に全力・本気で解決に向けて取り組んでいこうとする子どもを育てます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	◇子どもの思いや願いに沿った必要感のある授業を行うことで、子ども自身も自らの活動の課題を明確に設定し、解決のための具体的な活動や思考方法を選択、判断していけるようにする。生活科、総合を中心に、自らの設定した夢や目標に向けての取組やめあて、学び方等を子どもと共に設定する。部会を中心として、日頃から授業を見合ったり、板書や子どもの様子を共有したりする。
担当	推進委員会	
徳	人権教育	◇日々の授業の中での人権教育や年2回のえがお会議、人権週間の取組を通して、「誰もが安心して豊かに」過ごせる学校づくりを推進する。◇縦割りの「とべフレチーム」を中心に、1年生を迎える会、集会、全校遠足、とべとべスポーツフェスティバル等を推進し、異学年の友達を理解し、仲良く交流する力を育む。
担当	特別支援教育部	
体	健康教育	◇休み時間のボール等の利用の再開や、スポーツ委員会が企画する体力アップ週間等を通して、一人ひとりの体力向上を目指す。◇学校保健員会を通して、心と体の繋がりについて学び、心身ともに健康な子どもを目指す。◇保健や特別活動の学習を通して、子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。
担当	体育部	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	◇どの学習においても、友達やまちの人と関わりを意識して学習を行い、一人ひとりが自己有用感を高められるようにする。◇とべフレチームや学級での活動の中で、学年に応じた自分の役割を意識して学んだり活動したりできるようにする。
担当	児童活動部会	
	いじめへの対応	◇「いじめ防止基本方針」のもと児童支援専任を中心に、全職員で全児童の理解に努め、共通の認識・判断基準で指導にあたる。また、丁寧な実態把握に基づく早期発見・早期対応に努め、きめ細かい対応をする。◇月に1回、職員会議、特別支援教育部会にて情報共有を行い、児童理解を図る。また、必要に応じて開催する。
担当	いじめ防止対策委員会	
	人材育成・ 組織運営(働き方)	◇メンターチームでは、メンバーの課題に応じた研修や他校の研究会へ参加したりすることで、学んだことを各学級で実践し、主体的、協働的に粘り強く追究しようとする子どもを育む。◇ミラ임やロイノート、スプレッドシートなどを活用し、作業や全職員の共通理解を効率的に進めることができるようにする。また、Googleの機能を活用し保護者の協力を促し、事務の簡便化、効率化を図り、働き方改革につなげる。
担当	教務部・メンターチーム	
	特別支援教育	◇周囲の友達と関わりながら自分の力を発揮し、自己有用感を高め粘り強く追究する子どもを育むために、一人ひとりに応じた合理的配慮を行うとともに、職員の特別支援教育への理解を深める。◇地域、保護者、専門機関などと連携し、困り感のある児童や家庭をチームで支援していく。
担当	特別支援教育部	
	児童生徒指導	◇全校で子どもたち同士が関わる際、子どもたち自身で仲間づくりができるように、その意義や良さを日頃から指導する。◇あいさつや返事をする大切さを、朝会や人権委員会の取組等を通じて継続して指導する。◇授業や生活上のルールを「戸部小スタンダード」として、職員・子ども・家庭で共有し、指導の徹底に努める。
担当	児童生活部会	
	地域学校協働活動	◇学校文化となっている保護者・地域との協働による特色を生かした教育を継続し、子ども主体の教育を推進する。◇学校だよりやHPなど、教育活動の発信に努める。◇各行事のアンケートや学校評価アンケートを通して、学校経営の評価を適時行い、改善していく。◇PTA、学校運営協議会、共育倶楽部との連携を図る。
担当	教務部	
	a15	b10
担当		